

1日目
第一部

福井 有理 理事長 基調講演

C-PLATS導入の意義

平成23年3月10日(日)
於・シーサイドホテル舞子ビラ神戸



大手前学園 理事長・総長

福井 有

みなさんこんにちは。年度末の3月の忙しいときに、こうしてみなさんと1泊2日で研修できたこと、非常にありがたいことだと思っております。今回の宿泊研修にはほとんどの先生がたにお集まりいただいていると聞いています。2年ほど前にこの場所を使ってユニット選択制の話しをさせていただきましたが、この2日間は新しい、C-PLATSの導入というテーマに絞って活発な議論をしていただければと思います。

今年の新入生数も固まってきました。短期大学が苦戦しておりますが、大学、短大、専門学校合わせて1,370名。昨年より少し減っていますが、これ以外に通信教育課程が170名くらいの新入生を予定しておりますので、通信教育課程を入れた大手前学園の新入生は1,500名を超える1,540名くらいの新入生を迎えることができます。今年の志願状況は総合文化学部のスイーツ学系が増えておりますが、現代社会学部が苦戦しております。近畿大学に新学部、総合社会学部(450名)ができたのですが、それを現代社会学部が影響を受けて苦しい状況ですが、3学部、短大、専門学校ともに定員をオーバーして確保することができました。

この結果は、日本の大学の46%、短大の69%が定員を割っているという状況で考えると、健闘だと思います。46%とひと言に言いますが、265校どこかの学部定員を割れている大学が現状としてある。短期大学は365校あるのですが、246校が昨年度で定員を割っているということです。

大手前の価値提供をこれは以前お示ししていますが、3学部まとめてリベラルアーツ型の教育をわれわれは提唱してきております。学生本位の教育、主役はあくまでも学生であるべきと。教職員の一体化。今日のようにFSD教職員一同、同じ方向を向いてがんばっている。そして夙川、伊丹、大手前の地り。全国平均58.5%ですが、兵庫の進学率はいくつかご存じですか。60%です。ですから大阪・兵庫は

大手前大学の new 教育力

—C-PLATS®導入の意義—

「大学教育改革研修／舞子ビラ神戸」

理事長 福井 有
平成23年3月10日

大手前学園入学者数(11.3.8現在)

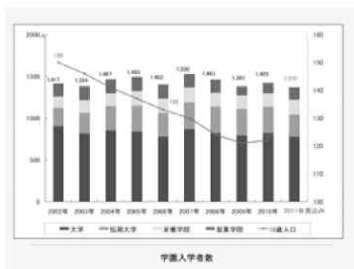
	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年度 見込み
大学	845	776	867	819	790	819	773
短期大学	312	288	324	322	315	316	269
学費学院	173	174	175	166	160	162	178
製菓学院	168	164	164	161	115	128	150
合計	1,498	1,402	1,530	1,468	1,350	1,425	1,370

全国よりも進学率が高い。そういう意味で阪神間にあるわれわれは、都心部にある大学として、恵まれている環境にあるということが言えると思います。

われわれの価値提供といましようか、「社会人基礎力と自分で創る専門性をはぐむリベラルアーツカレッジ」という新しいミッションを2007年秋に発表いたしました。今年はこのユニット自由選択制の1期生が卒業を迎えることになりました。今日のお話はなぜわれわれはC-PLATSを導入するかという点に絞ってお話をしたいと思います。それを説明する理由の1つは、大学の市場環境の変化です。2つめは若者の雇用環境の変化、この2つに絞ってお話したいのですが、特に大学、短期大学の平成4年と平成20年、16年前と平成20年を比べた数字がたまたまありますので、これをお示しします。18歳人口でこれを見てください。平成4年は200万人だったのです。それが20年には124万となり、60%減っているのです。短大は約500校あったのが387校。18歳人口が6割になっているが短大は77%残っている。入学定員でいきますと、18万人あったのが8万人になっている。当然志願者は7割くらいになっているかという、87万人が11万人になっているのです。これをグラフで示しますと、18歳人口は平成4年と平成20年で6割です。205万人が124万人。これ6割です。そして短大数はしぶとく500校が387校になっています。この減っている短大のうち完全に募集停止したものと、4年制に鞍替えをしてなんとか生き残っている。

ただしんとい短大は4年制をつくってもそれで生き返るとい保証はなにもありません。入学定員も18万8000人あったものが8万3000人に減っておりますが、先ほどいまいしたように、7割の短大が定員割れをしております。大学生はこの16年間で大学のマーケットはこのぐらい減っているということで、ただ在生を見ても、ポイントは短大になっていますので、志願者数の87万人が11万人に減っているというのが大きな変化だと思います。

短大のマーケットが80万人から18万人に減っても大・短・専の平成4年と平成20年の合計の数がどれだけあったかという、平成4年が360万人だったのですが、平成20年実は360万人で短期大学の在学者数だけが…。何が言いたいかというと、平成4年から平成20年の間に18歳人口は減りました。減ってマーケットも小さくなりましたが、大学短大専門学校へ進学する数は、つまり大・短・専への進学者数の総計は360万人で減っていない。



大手前の提供価値

- 学部教育からの脱却
- 学生本位の教育
- 教職員の一体化
- 夙川・伊丹・大手前の地のり

大手前の提供価値

「社会人基礎力と
「自分で創る専門性」を育む
リベラルアーツカレッジ

学士課程教育について 1

- 明確な「学習成果」を重視
- 学士水準の国際的水準の維持・向上
- 初年次教育の充実
- 教職員の職能開発
- 大学の質保証システム

学士課程教育について 2

- 社会からの信頼に応え、国際通用性を備えた

学士課程教育の構築

- 3つの方針

アドミッション・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

大手前大学: 建学の精神、使命

- 建学の精神:

"STUDY FOR LIFE"

(生涯にわたる、
人生のための学び)

- 使命:

「リベラルアーツ」型教育

■「自分で創る専門性」

■「社会人基礎力」



組織改革と教育改革 (1)



組織改革と教育改革 (2)

学びの分野を12 の「系」に分類

※2010年度より14系に

学部は学びの大分類
系は学びの中分類



在学生数を見ると、367万人が平成4年だったのですが、平成20年も360万人で、これは減っていない。この点が注目すべき点です。この16年の間に大学は23%増えていますが、短大は67%在学生を減らしてしまいました。その分ですれど、学部を増やすなどいろいろやっていますので、まだ数を維持しながらなんとか頑張ってきました。

しかしこれで安心しないでください。大学も4割ほど定員を割っています。全国調査によると、定員800名以上の大手校、総合大学の9割近くは定員を集めています。1.2倍くらい集めています。800名を切る500名とかですね、一部学部だけの大学がありますけれども、そういう大学は9割以上が定員を割っています。私どもは670名ですけれども、なんとか1.1倍くらい集めているというポジションになります。

通信の定員ご存じですか。うちの通信の定員は500名なのです。160名しか集まっていませんけれど、ということは通信の入学定員500名というのは、私どもの規模の大学においては経営的にマージナルな位置にあるということをご理解いただけると思います。

これは学士課程教育です。2、3年前に発表された明確な学習成果を重視、初年次教育の充実等々ございます。大学の質保証システム。この質保証をそれぞれの大学で考えることをやかましく言われております。そして学士課程同士の中で、社会からの信頼に応え、国際通用性を備えた学士課程教育の構築ということで、3つの方針を出すよう言われています。アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、このようなポリシーをそれぞれの大学で作成して、そのポリシーに合致しているかということを経営の基準にしますよというのがこれまでの流れです。

そこで我々は三学部クロスオーバーでなんとかやってきました。学びの系を14の系、メジャーをつくりました。ある意味ではこの学校が強いとかこの学校が弱いとか先ほど言いましたけれど、われわれはリベラルアーツという大きな冠を付けてこの3つの学部のそれぞれの特徴を選びながら学生にとっては入学してからメジャーを選ぶことができるという、レイトスペシャライゼーションのある意味全国にさきがけたモデルを提唱したわけです。

ユニット自由選択制ということで、かつてはこれを始めたころは、どちらかというとランクの低い高校で、偏差値の高い高校からは何を専門に勉強することができるのか大学らしくないという批判も多少ありましたが、今ではメジャー制

を導入したおかげで高ランクの高校からも優秀な学生を送ってくれるようになってきました。

この冬休みに塩谷俊監督の集中講座があったわけですが、大学で授業受けるのにオーディションをされました。私は学生が来なかったらどうするの心配したのですが、なんと30名を超える学生が履修してくれて集中講座をしていただきました。その学生の中に映画、演劇をやりたいから大手前に来たという学生がいました。塩谷さんの特別講座に目を輝かせて受講してくれていましたし、その満足度は95%の学生が非常に満足したというアンケートに答えてくれています。

監督からも潜在能力があって非常にやる気がある学生が何人もいたと、明日からでも映画の現場で使えますよと言われました。これはお世辞じゃないと思います。こういう改革をずっとやってきて、このようなやる気のある学生も集まってきたということをご理解いただきたいと思います。

ここで視点を変えて、グローバル化する雇用問題について触れたいと思います。企業の視点で言えば日本はかつてのような右肩上がりの成長はもう不可能な時代になりました。新興国など未開拓な海外に求めざるを得なくなっています。これからはグローバル化した国際社会では国籍にとらわれず優秀な人材を世界から求めなくては生き残っていけない。その証拠をお見せします。

新興国の中間所得層、いきなり出てきましたけれど、BRICSと呼ばれる国々の人口がだいたい今30億人くらいと言われています。ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの国々ですけれども。その30億のうちのハイクラス、ロークラスに分けて中間層、だいたい所得で5000ドルから3万5000ドルくらいのクラスが6億人、毎年1億人くらい増えている、これ2007年で6億ですから今8億くらいいる。この8億人が市場のマーケットを動かしていると言われてい

ます。このBRICSの国々のこのミドルクラスがどんな生活をしてどんな車を買ってどんな生活必需品を買うか。この中間層にたとえは韓国のサムスンとかインドのタタとかがシェア獲得競争に食い込んで世界市場を動かしている。この世界の消費市場を動かしている彼らに一番求める製品はどこの国の製品ですかとアンケートを取った人がいるそうです。それによると一番人気はなんと韓国製品なのだそうです。2番は中国製品、3番目は自国の製品ということで、なんと新興国における日本ブランドはもう崩壊しているの

組織改革と教育改革 (3)

「ユニット自由選択制の」

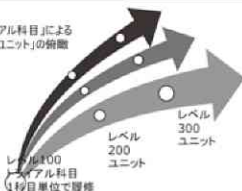
各系に属する互いに密接な関連を持つ3〜5科目を「ユニット」として構成

入学期間にかかわらず、他学部で開講される「ユニット」でも自由に選択可能

現代社会問題200
環境問題・人の問題200
グローバル化と情報と国際200
労働問題と法200
都市問題の歴史200

組織改革と教育改革 (4)

「トライアル科目」による「系」「ユニット」の俯瞰



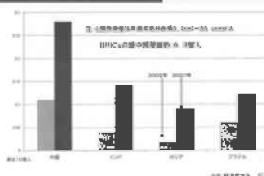
組織改革と教育改革 (5)

<メジャープログラム>

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 日本史 | 13 マンガ制作 |
| 2 東洋史・西洋史 | 14 映像アニメーション |
| 3 考古学 | 15 メディア文化 |
| 4 地理学 | 16 映画・演劇 |
| 5 書誌文化 | 17 出版編集 |
| 6 国際コミュニケーション | 18 心理学 |
| 7 観光ビジネス | 19 情報 |
| 8 比較文化 | 20 現代社会 |
| 9 文芸 | 21 ビジネス・キャリア |
| 10 スーツ学 | 22 マネジメント |
| 11 デザイン・造形美術 | 23 福祉・健康 |
| 12 建築・インテリア | |



新興国の中間所得数の増大



新興国の市場成長

- 世界の市場はBRICS諸国の中間層へ大きくシフト
- 技術のデジタル化により新興国での生産が可能に
- 新興国における日本ブランドの崩壊

日本のものづくりの危機

- 景気変動に対する要因
- 構造的な要因
- サービス業は水平分業へ

↓

企業のグローバル採用に適合する人材

です。

もちろん日本製というのは壊れないし、デザイン性も優れているが、ただ価格が高くていろんなものがついている。電子レンジにしてもいろんなものがついている。携帯電話が一番その象徴ですけども、携帯電話の機能が40も50もある。この人たちの携帯電話は電話でさえればいいわけです。しかし日本の携帯電話は日本でだけ通用して、NTTよりもノキアの電話のほうが安くて便利だとなってしまっているわけです。

こういう新興国の成長市場といましようか、世界の市場はBRICS諸国の中間層へ大きくシフトしている。技術のデジタル化が新興国での生産が可能になってきています。日本は日本の中で日本人相手にもものづくりをしている時代はよかったです、少子高齢化になり、技術のデジタル化によってすばらしい技術を何年もかけてお金をかけて開発しても、それが小さなチップになって世界中に飛んでいくようになりました。新しい技術がICチップによってお金さえあればどこへでもトランスファーされてしまっていて、それを利用して新しい製品を新興国でも作るということ、人件費も安いですから日本で作るよりも安くできる。

こういうふうにも新興国でも製品を作れるようになってしまったということで、新興国における日本のブランドは崩壊してしまっている。かつてのジャパンアズナンバーワンと言われた日本の成功物語というのが日本においてはよかったですけれども、日本のマーケットがBRICSのマーケットに比べて小さくなってしまったということにより、海外でこれからはうける製品なり技術なりを開発しないと生きていけない。企業がそうですから、日本の景気に対する日本のものづくりの危機、景気変動に対する要因、それから構造的な要因もありますが、サービス業は完全に水平分業になっていて、そこにおける企業のグローバル採用に適材する人材を輩出しないと企業は見向きもしないのです。

パナソニックは1400人の新入社員を取ると発表して、なんとそのうち日本人は300人のみで、あとの1100人は海外採用。ユニクロも50%は日本人を取れるけれどもあとの50%は外国人。楽天においても600人のうち100人を外国人に、さらには公用語を英語にする。こういった流れも企業の将来展開を考えると納得できる。それと日本の企業が日本の大学の卒業生に見向きもしなくなるという時代がもうそこまで来ているのです。

では我々大学はどういうふうな人材を養成しなければい

けないか。こういうグローバルな機関の動きは頭に入れておかないといけないということです。

鈴木寛副大臣によりますと、今日日本に必要な人材として、人類に新たな価値を創造する人材。スポーツ、経営、科学、文化など各分野にイノベーションしてくれる人材。そして日本で創造した価値を諸外国の人たちとコラボレーションして広げてくれる人材、この分野では当然英語教育が異文化理解の行動につなげる人材が必要となってきます。そして世代や立場を超えてコミュニケーションできる人材。福祉や介護など自分のところの立場を支えることのできる人材。このような人材が今後日本に必要なようになってくると言っておられます。

考えてみたらそうですね、例えばバイクをつくるにしても日本でバイクを作って売るよりもよりはるかにベトナムで作ったほうが売れるわけですね。車を作るにしても日本で作るよりも中国で売れる車を作った方が売れるに決まっているわけですね。冷蔵庫にしても炊飯器にしても、中国で売ったら日本の何倍も売れるわけです。新幹線だってそうですね、九州の鹿児島まで行ってしまったわけですから、アメリカとか中国とかベトナムとか、そういったところで新幹線の受注があれば日本の新しい海外進出になります。原子力発電しかりですね。

このような国際競争に勝ち抜くためにはどんな能力が必要か。たとえばコミュニケーション能力とか教養とか根性も必要です。外国人とやっつけていけるガッツも持っている人材。そういう人材を大学としては育てていく必要があるといえるわけです。日本経団連の調査によりますと、企業の大学教育への期待ということで、一番に挙げられたのが、「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す」、「理論に加えて実社会でのつながりを意識した教育を行う」、「専門分野の知識を学生につけさせる」、「チームを組んで特定の課題に取り組む」、「専門分野に関する他の領域の基礎知識も身につけさせること」。

一方大学が考えて学生に身につけさせたいと思っていることはこちらです。「専門分野の知識」が一番にきて、2番が「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す」、で、先ほどの企業が考えていることと大学が考えていることに大きく乖離があります。

2つの表を一緒にしますとこうなります。「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す」、これもあるプレゼンテーションの能力が求められるかもしれませんが、この2番目の理

今後日本に必要な人材

- 人類に新たな価値を創造する人材
→ トップの人材の教育
- 日本で創造した価値を諸外国の人達と
コラボレーションして広げていく人材
→ 英語教育・異文化理解の推進
- 世代や立場を超えてコミュニケーション出来る人材
→ キーキャリア教育とコミュニケーション能力育成

— 文部科学大臣 橋本 達

企業の大学教育への期待



大学が教育面で注力している点



人材育成の企業側ニーズと 大学側の取り組みの相違



リベラルアーツカレッジのゴール

- Think and problem-solve in a creative, risk-taking manner.
- Express ideas and feelings in organized, logical, coherent, descriptive, rich language both orally and in writing.
- Analyze, organize, and use data for meaningful solutions.

— The Hidden Ivies

リベラルアーツカレッジのゴール

- Develop the capability of setting goals with appropriate information and research and then achieve these goals with proper means.
- Help define a personal-value and ethical system that serves throughout life in making the challenging decisions one will face.
- Have the capacity and instinct to work in a cooperative, collaborative manner with others in one's professional and community life.

— The Hidden Ivies

今後の大学教育 I

- ますます増える留学生
- 卒業生はグローバルマインドな学生が求められる
- 外国語(英語)教育・異文化理解の重要性は増す
- 社会人学生の増加

グローバルマインドな能力



論に加えて「実社会でのつながりを意識した教育」、この乖離が非常に大きいですね。このところが能力開発の必要性がこのギャップから問われているのではないかなと思います。

専門分野の知識を学生にしっかりつけさせること、それからチームワークですね、最後のところはたとえばリベラルアーツ、他領域の基礎知識を広く身につけさせるリベラルアーツ教育なんかはこのところではできないかなと思います。

リベラルアーツカレッジのゴールという意味で、アメリカの例をあげますと、ハーバードとかイエール、次のランクの、アムハーストとかノートルダム、スミスカレッジ、バツサーとか30校くらいのミッションステートメントを整理すると、おのずと6つのゴールで表わされるといわれています。アメリカの「リベラルアーツの隠れた秘密」という本によりまして次のようになります。Think and problem-solve in a creative risk taking manner問題解決力ですね。2つめはExpress ideas and feelings in organized, バラバラとあってOrally and in writingと書いていますけれども、豊かな表現力でしょうか。3番めはAnalyze, organize, and use date for meaningful solutions 分析力ですね。それからDevelop the capability of setting goals目標設定ですね。次がHelp define a personal value 社会的責任。そして最後がHave the capacity and instinct to work in one's professional and community life リーダーシップということですね。

これらの大学はすべてこのような目標に向けてミッションステートメントを作っています。リベラルアーツ教育は単なる教養ではなく、社会における基礎的能力を養成するものであり、ひと言でいえば問題解決力の育成という共通の指向性が見えてくるのではないのでしょうか。

今後の高等教育ですが、ますます増える留学生。世宗大学から4年前に入ってくれた学生が、14~5人いましたが、1人は留年しましたが、そのうち7名、つまり50%が大学院に進学を目指しているという状況は他の日本人学生に非常にいい刺激を与えてくれたのではないかなと思っております。それと先ほどから言っております、卒業生はグローバルマインドな学生が求められる、そして外国語教育、異文化理解の重要性は今後ますます増してくるでしょう、社会人学生が増加してくるでしょう。グローバルマインドとはどういうことかと言いますと、こういうふうに文科省なんか

はいております。どんどん閉鎖的、内向的な学生が増えておりますので異文化理解をさせて学内においても外国人留学生とコミュニケーションをとるとか。社会人を入れて世代間交流の機会をつくることも必要でしょう。

これは秋田の有名になりました国際教養大学の留学生自己評価で、こういった実行力とか、課題発見力とか創造力とか、彼らは2年間のうちの1年間、100校近い提携校に留学をして帰ってくるというプログラムを持っているわけですが、その100校の中ではポートランド州立大学ですとか、安藤先生がおられたウェスタンオレゴン大学とか、アルバーノカレッジとか、オーストラリアのグリフィス大学とかわれわれの大学ととても馴染みのある大学がありますが、こういった大学に1年間留学して帰ってくると、これ学生の自己評価です。自己評価として実行力や問題解決力、創造力が上がったと彼らは採点していますし、こういった大学も社会人基礎力という点に視点を置いて指導されていることがわかります。

この大学はGPA2.0以下は卒業させていませんので卒業率は50%です。しかしそういう大学でも厳しく教育をしているということで、就職率はご存じのとおり100%ですし、偏差値も非常に高い、それらは60くらいある大学ということで今注目を浴びております。

さて、今後の大学、われわれのですね。地域企業・行政とのコラボレーション、eラーニングの学生も増えて来ております。今2200名の通学生がオンライン科目を履修していると聞いております。このように外部環境を見てきますと、卒業生の質保証がこれから大学の質とリンクして重要度を増してくることが予想できます。そこでこのほど商標登録を取得したC-PLATSという大手前独自のコンピテンシー評価を実質化していくことに集中していただきたいと思います。

ポケットに入れる、簡略版も作りました。ぜひ明日からはこれをポケットに入れて有効活用していただけたらと思います。

われわれ大手前大学はリベラルアーツ型教育を堅持し、徐々にそのえにアウトプットを意識した能力開発型教育へと変貌していくことが世の中に強く求められていると強く感じております。10年後、東京証券取引所の社長の半数が外国人になってもおかしくないような時代です。このように企業にはグローバルな視点がどんどん押し寄せておりますので、大学においてもこの変化に影響を受けないというわけにはいきません。以上、なぜ大手前にC-PLATSを導入したかという理由を申し上げて、私の説明とさせていただきます。ありがとうございました。

国際教養大学の留学生自己評価

	留学前	留学後
実行力	3.35	4.13 ↑
課題発見力	3.50	4.04 ↑
創造力	3.00	3.89 ↑
発償力	2.88	4.11 ↑
ストレスコントロール	3.20	4.16 ↑

— 国際教養大学「留学交流」

今後の大学教育 II

- 地域企業・行政とのコラボレーション
- eラーニング学生（通学・通信）の増加
- 資格取得の支援
- 大学院進学の支援

C-PLATS®への期待

- 全教職員による認知と推進
- 初年次教育から専門教育へ（横から横へ）
- 全教科、全担当のシラバス記入



能力開発型教育への転換

C-PLATS®で
大学を変革しよう!

